

馬場小室山遺跡ゆかりの指定文化財



1 ▲人面画土器(県指定)

指定地東側の第5・20次調査で、第51号土壙と呼ばれる大型の遺構から出土しました。高さ14.8cmの小型の深鉢形土器に人の顔が描かれています。縄文時代晩期。



2 ▲土偶装飾土器(県指定)

指定地内の南西で行われた第3次調査の出土。高さ16.2cmの小型の深鉢形土器に、男女一対の土偶装飾が貼り付けられています。男性土偶は安行式に特徴的なみみずく土偶です。縄文時代後期。



3 ▲注口土器(市指定)

注口土器(市指定)

第5次調査の第12号土壙より出土。高さ18.5cmで、筒状の注ぎ口が付きま。東北地方の影響を受け、入り組んだり三つに分かれる文様が、丁寧に磨かれた器面を装飾しています。縄文時代晩期。



4 ▲第51号土壙出土土器(市指定)

1が出土した第51号土壙は、深さ約2.6mの巨大な土壙です。1の土器の他にも遺物が大量に出土しました。その内の主要な土器群が市有形文化財に指定されています。縄文時代晩期。



天然記念物

5 ▲小室社のタブノキ(市指定)

暖地性の常緑樹です。指定地の南に接して生え、樹高約24mの大木です。

馬場小室山遺跡・ばんばおむろやまいせき

指定種別 史跡(埼玉県指定)

指定年月日 平成27年3月13日

所在地 埼玉県さいたま市緑区大字三室

指定面積 4,284㎡

☆貴重な文化財です。指定地内への立ち入りはご遠慮ください。

※馬場小室山遺跡は平成17年3月にさいたま市指定史跡に指定され、保存がはかられてきましたが、その高い価値が評価され、平成27年3月、埼玉県指定史跡に指定されました(市指定は解除)。



馬場小室山遺跡空中写真(昭和57年)

見事に色づく落葉樹と深い緑の常緑樹が産地を挟んで鮮やかな対比を見せています。都市化が進み次第に緑地が失われていく中で、指定地には里山のたたずまいを伝える貴重な雑木林が残されています。

交通のご案内

JR武蔵野線東浦和駅もしくはJR京浜東北線浦和駅東口から「馬場折返場」方面行きバス「三室中学校」バス停下車、徒歩5分 ※駐車場はありません



お問い合わせ さいたま市教育委員会生涯学習部文化財保護課

☎048(829)1723 (2015.3)

このパンフレットは20,000部作成し、1部あたりの印刷経費は5円です。印刷経費の一部に平成26年度文化庁国宝重要文化財等保存整備費国庫補助金を充てました。

埼玉県指定史跡

ばんば おむろ やまいせき

馬場小室山遺跡



人面画土器
(埼玉県指定有形文化財)

さいたま市教育委員会

■馬場小室山遺跡とその時代

さいたま市内には、1,000 か所以上の遺跡が残されています。中でも、およそ1万年間続いた縄文時代の遺跡は、台地の縁辺や谷際を中心に、数多く分布しています。

草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の6つの段階に区分される縄文時代の中で、後期の後半から晩期中頃の関東地方では、「安行式」と呼ばれる時期と特徴的な文化が形成されました。市内には国指定史跡の真福寺貝塚をはじめ、「安行式」を代表する遺跡が数多くあります。馬場小室山遺跡もその一つです。

馬場小室山遺跡には、「安行式」を中心とする時期の集落のあり方が他に例をみないほど良好な状態で残されています。遺跡の中心部分は、史跡として保存されています。

馬場小室山遺跡とさいたま市内の縄文時代後・晩期の主要な遺跡



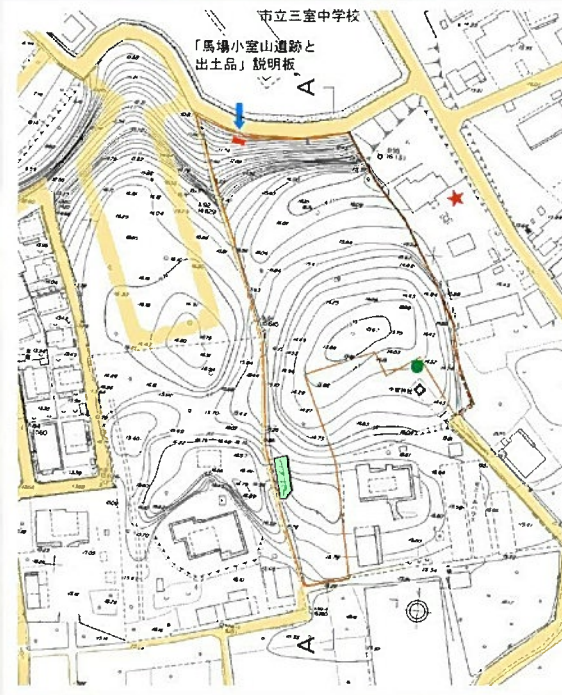
- ① 裏慈恵寺遺跡 ② 岩槻城跡 ③ 黒谷田端前遺跡 ④ 東北原遺跡 ⑤ 小深作遺跡 ⑥ 藤子泥炭層遺跡
- ⑦ 南方遺跡 ⑧ 奈良瀬戸遺跡 ⑨ 氷川神社遺跡 ⑩ 寿能泥炭層遺跡 ⑪ 前窪遺跡 ⑫ 真福寺貝塚
- ⑬ 四本竹遺跡 ⑭ 大谷場小池下遺跡 ⑮ 大谷場遺跡 ⑯ 曲庭遺跡 ⑰ 南1号遺跡 ⑱ 南沼遺跡

■縄文のムラ

馬場小室山遺跡は、見沼の低地から南に入り込む谷のほりに立地しています。遺跡の形成は縄文時代早期に始まり、縄文時代晩期まで続きました。中でも縄文時代中期以降、この地域を代表する集落として発展しました。

発掘調査では、住居跡をはじめ、生活の中で使用された土壘（土坑）などが重なり合って発見されています。また、多種多様な土器、石器（石斧・石鏃・磨石・石皿など）に加えて、祭祀に関連する土版・土偶、独鈷石・石棒・石剣、装身具の土製耳飾り、石製垂飾・勾玉なども大量に出土しています。

馬場小室山遺跡と周辺の地形



この図は、昭和58年(1983)に埼玉県教育委員会が作成した地形詳細測量図を基にして、史跡の指定範囲や現在の主な道路などを重ね合わせたものです(平成27年3月現在)。

- 史跡の範囲
- 現在の主な道路
- 第5次調査の位置
- 説明板の位置
- 第3次発掘調査区
- 小室社のタブノキ(市指定天然記念物)

■「環状盛土」

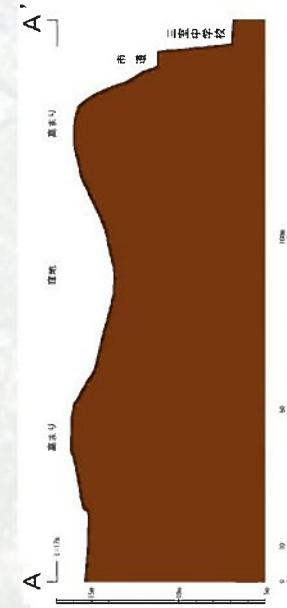
近年、縄文時代後期や晩期の集落跡では、自然の窪地を利用して周囲に土手状の盛土を廻らす「環状盛土」の存在が知られるようになりました。市内では、氷川神社遺跡(大宮区、地図⑨)、前窪遺跡(浦和区、地図⑩)、真福寺貝塚(岩槻区、地図⑫)などがその事例として知られていますが、中でもこの馬場小室山遺跡では、特異な地形と大量の土器を含む土層が幾重にも堆積していることが、早くから注目されていました。

馬場小室山遺跡では、史跡指定地の中央に、直径50メートルほどの窪地があり、その周囲を取り巻くように史跡の内外にわたって高まりが断続しています。窪

みの中心と周囲の高まりとの間には、およそ3メートルもの高さの差があります。

積み重ねられた調査と検討によって、馬場小室山遺跡の「環状盛土」は縄文時代後期中葉から晩期に形成されたことや、窪地の周囲に竪穴住居などが繰り返し造られたことによって高まりが発達したこと、反対に窪みの中には生活の痕跡は希薄なことなどがわかってきました。

膨大な生活の跡や道具類、そして「環状盛土」。馬場小室山遺跡は、この時代のムラの実像を解き明かす手がかりの宝庫です。



この図は、左の平面図のA-A'の間の地形断面を模式的に表したものです。地形の起伏をわかりやすくするために、上下方向の縮尺を5倍にしています。